

Title タブレットが使えない



Theme 04

つながりかたの 選択肢がありますか？



行動目標2

誰もが地域社会と「つながる」
さまざまな接点をつくります

便利な世の中になったもんだ。
スマホやタブレットで
買い物も済むし、
会議もできる。
離れていても誰とでも
つながれる...はず？

多様化する社会との

つながりかた

大企業を中心とした就業者の約3分の1がテレワークを経験するなど、新型コロナウイルス感染症の影響によりオンラインでのコミュニケーションが急増しています。オンラインの価値は福祉分野や教育分野でも見直されており、不登校やひきこもりなど一人ひとりの状況に合わせた対応ができるという点でも、可能性が認識され始めています。

一方、デジタル機器やインターネットに慣れ親しんでいない世代が、時流に取り残されることも懸念されています。対面でのコミュニケーションが制限される「新しい生活様式」を踏まえ、誰もが社会とつながり安心した日常を送ることが求められています。

廿日市市の取組事例

老人クラブで 「スマホ教室」開催



廿日市市老人クラブ連合会では、一部の地区で、「スマホ教室」を行っています。

ある教室では、市内の生徒や学生がボランティアでスマートフォンの操作を手伝いました。

教室では、スマートフォンのアプリ機能を使った位置情報の確認、LINEを使ったメッセージや写真の送信、廿日市市ゴミ分別アプリの導入、安全安心メールの登録をしたり…。孫世代との交流に、教室はほっこりした雰囲気に。

教室の終わりには、「(LINEで)グループつくろうや。」「孫に写真が送れるようになったよ。」とスマートフォンの活用に積極的な声が聞こえていました。



誰もが社会とつながるために

何ができるだろう？

市民一人ひとりで心がけること 身近な人たちと一緒にできること

- ・インターネットを活用してみましょう
- ・多様なコミュニケーション手段を学び、使ってみましょう
- ・困っている人を見かけたら、声かけや手助けをしましょう

地域全体で取り組むこと

» 地区・地域

- ・ホームページやSNSなどを活用してみましょう
- ・オンラインによる事業を実施してみましょう
- ・チラシ、地域だよりなどで、自分たちの地区・地域で取り組んでいる活動を発信しましょう

行政が取り組むこと

- ・情報の質や量の充実に努め、デジタル機器や紙媒体など、対象に合わせたツールで分かりやすく伝わるよう工夫します
- ・各地区の地域福祉活動に関する小さな情報を、日常的な市民との対話により把握し、関係部署や関係機関へつなぎます
- ・地域情報や市の施策に関する情報を活用し、地域福祉活動につながる事業を実施します
- ・情報を共有できる場、機会をつくります